

希学園 第404回 小5公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第404回公開テスト 小5国語 解説動画(2026年1月11日実施)	https://vimeo.com/1153112681/5488096e2a

(同意可)

① (塚原龍雲『なぜ日本の手しごとが世界を変えるのか』より)

1 線①から三段落あとに、「僕なりにたどり着いた答えが…」という形で書かれている。文章や段落のはじめに問いかけがあれば、答えを探すつもりで続きを読んでいる。

2 文章中に手仕事のよさは書かれているが、機械で作られる器の悪い点については、1とは違って答えが文章中に結論の形で明記されていない。Iは柳宗悦からの引用文にある「定規」が「機械」と重ねられていることがわかれば、その説明から「始点と終点の間で決められた線にしかない」が見つかる。IIは問題文中の「手しごとの器から感じられるようなII：四字」を超える美しさやよさが生み出せない」という表記が、柳宗悦からの引用内の「人の手に示された造化の妙に匹敵することができぬ」と対応している。IIIも「機械」と「定規」の重ね合わせから「定規」で引かれた線がどのような仕上がりになるかを探していくと、柳宗悦からの引用内で「いかに前者が単調であろう」が見つかる。

3 ここでの「経済的なこと」は「伝統工藝」と対比されたとらえ方であるので、「伝統工藝」の品物と対比されている「大量生産品」の説明の中から「経済」、つまり「利益」や「商売」につながるような言葉を探していけばよい。「いまの時代の潮流を意識したもの」や「モダンな工芸品」は高価で売られているので「安価でお洒落な器」と区別しておこう。

4 ここで「健康的」な器は、「愛やこだわり」が「置き去りになってしま」い「感性や美意識」が除かれた「経済的・合理的なこと」だけの器と対比されている。作る人との「つながり」を感じること、作る人の「愛やこだわり」、「感性や美意識」も伝わるのである。

5 「触覚性」がどのようなものかは——線⑤をふくむ段落の終わりで『言葉』という粗い金型では表しきれない、手から手へと、体へ直接的に伝わる美であり、それこそが手しごとの温かみである」とまとめられていた。『言葉』という粗い金型では表しきれない」というのは「言葉では表しきれない」ということである。

6 「味覚だけでは説明しきれ」ないものであるので、「美味しい」がはいる。

7 線⑦の三行後に、「これまで観えなかった、気づけなかった」と——線⑦と同じ意味の言葉があることがヒントになる。

8 X「だけ」の意味になるものである。Y「〜と同時に」の意味になるものである。Z時間のまとまりの終わりを表すものである。

9 a「対照」は「対象」や「対称」などの同音異義語との使い分けをはっきりさせておこう。b「言語化」は言葉で表すということである。c「左右」はあわてて上下を逆にしないように気をつけよう。d「管理」は「管」のたけかんむりを忘れてはいけない。e「季節」は「季」を「姿」や「季」としたり、「節」を「筋」のように書いたりしてはいけない。f「思想」は「想」のしたごころを忘れないようにしよう。

② (川上弘美『20』より)

1 X「雲ゆき」はものごとのなりゆきのこと。Y「肩をすくめる」は肩をちぢめてあきれたり気落ちしていたりする様子を表す仕草。Z「助けぶね」は困っている人に力を貸すことのたとえ。

2 アーエのいずれも「まじめだ」の意味としては正しいものであるので、文章の内容に沿ったものを選ばないといけない。ここでははつきりしていないものをいやがったり、ふざけた態度をきらったりする性格である。

3 不適当なものを選ぶことに気をつけよう。ウにあるようなりらの「優秀さ」について、この文章では直接的にも間接的にも書かれていない。

4 線③の次の文に「前の年や、前の前の年の今日に、何をしたのか…」ということが、ひとめでわかる」と書かれていることから、開いたページに少なくとも二年分の同じ日付の日記が書かれていることがわかる。この条件を満たすのはウだけである。

5 「お母さんに少しおこられ」たことや、きれいな「肉の部分」がおかずに出たことへのとらえ方なので否定的な評価だろうと考えられるが、この日のカラスの鳴き声が「帰りが0ひく6」であったことから、文章前半の「0よりひいた数字で始まる日は、ついていないことが多い」に行き当たることができる。カラスの鳴き声が「0よりひいた数字」であることはりらにとつてうれしくないのである。

6 文章を通して一風変わったりらのこだわりや、絵やお母さんとの考えの違いが書かれていたことから、周囲とのずれをここでも暗示していると考えられる。暗示されているものについては、そのまとまりや全体の話をふまえた解釈を選んでいこう。

7 「やっぱり」とあることから、ここまでに書かれていた言葉であると考えられる。「ほとんど毎日お母さんにおこられている」ことから感じていることなので、お母さんがりらのことをどう思っているかをまず当たっていこう。

8 線⑦の直後からくわしく説明されている。「それからもう一つ」以後の内容をふくめることも忘れないようにしよう。

9 りらが言葉をどう思っているかについては、文章前半の絵との会話の中で書かれていたことをおさえれば、探す範囲をしぼることができる。「雨がふっている」と言葉で言っても、どのような方なのかは伝えられず、本当は「どしゃぶり」なのに相手が「ばらばら」降っていたと受け取るおそれがあるというようなことを、りらはいやがっているのである。

10 「十年日記」について書かれていたところで、「去年の今日、あたしは二年生だった」とあった。